

問題あり、 令和書籍『国史教科書』

2025年7月18日刊行

《発行の趣旨》

令和書籍『国史教科書』は、これまでの「つくる会」系教科書を越えて皇国史観と見まがう内容、植民地支配、侵略戦争を肯定・賛美しているのみならず、現在の国際関係についても問題の記述がある。

それは、コラム「蒸し返された韓国の請求権」で、「日韓基本条約、請求協定」では「民間の法人・個人持つ対日請求権を放棄することが約束された」にもかかわらず請求権の議論を蒸し返している、などと事実と反する内容を書いている。個人の請求権は消滅しないのは、韓国の大法院（日本の最高裁にあたる）、日本の最高裁や日本政府も国会答弁で認めていることである。また当時、日本軍「慰安婦」の問題はほとんど議論になっておらず「蒸し返し」はあたらない。こうしたことや植民地支配などの描き方は、検定の「近隣諸国条項」（教科書検定は歴史的事実に基づき諸外国の友好関係を促進するもの、との趣旨）に反するものである。

また、「日本軍が朝鮮の女性を強制連行した事実はなく、彼女らは報酬をもらって働いていました。また日本軍が...従軍看護婦のように『従軍』させ、戦場を連れまわした事実はありません。」などと記述している。これは1993年の河野談話で、慰安所の設置などの日本軍の関与と慰安婦の募集は本人の意思に反してあつめられた多くの事例がある。そして慰安所の生活は、強制的な状況下での痛ましいものであった。ことなどを認めたことを否定するもので、歴代政府が継承するとした政府見解に反するものである。

にもかかわらず、教科書ネットが指摘しているように検定合格させた政府の責任は大きい。こうしたことを含め、全般的に今回は、啓蒙の意味で広く明らかにする。



頒価500円
**※送料210円を
別途ご負担いた
できます。**

発行: 子どもと教科書全国ネット21

協力団体: 歴史学研究会/日本史研究会

歴史科学協議会/東京歴史科学研究会

歴史教育者協議会/自由法曹団

《構成》

はじめに 1

第1部 中学生の学習教材としての問題

1. その目は「学ぶ者」を見ているか
—「学びの手引き」としての問題点— 8
2. 何を学ばせようとしているのか 16

第2部 歴史学の視点から見た問題

1. 「原始」と「古代」の記述について 24
2. 「近代」の記述について 31
3. 「歴史修正主義」の問題について 38

第3部 教科書検定にかかわる問題

1. 教科書検定制度からみた問題点 48
2. 河野談話を否定し、近隣諸国条項を
無視することは許されない 55

資料 59

おわりに 64

下記までご注文ください！

一般財団法人 歴史科学協議会 114-0023東京都北区滝野川2-32-10-222

TEL/FAX : 03-3949-3749

E-Mail : rekihyo@mx10.ttcn.ne.jp